



血管看護の基盤づくり ～未来への躍進～

2024年5月31日(金) 13:30～16:30
別府ビーコンプラザ B1F 小会議室 2・3 (第6会場)
会長: 岩倉真由美 令和健康科学大学 副会長: 吉原悦子 西南女学院大学

プログラム

1. 会長・副会長挨拶
13:30-13:40
令和健康科学大学 岩倉真由美
西南女学院大学 吉原悦子
2. 血管看護特別講演 座長 西南女学院大学 溝部昌子
13:40-14:10 「血管看護に必要な形態機能学 1」
脳血管疾患と高次脳機能障害—形態機能学を基盤とした看護実践へのアプローチ—
令和健康科学大学 看護学部看護学科 教授 田中裕二先生
14:10-14:40 「血管看護に必要な形態機能学 2」
～バスキューラーナースのアセスメント、ケアに活かす「血管看護の基盤づくり」～
大分大学 医学部看護学科 教授 清村紀子先生
3. 第1回血管看護研修コース 座長 旭川医科大学病院 日野岡蘭子
14:45-15:15 「B2 手術看護/クリティカルケア/IVR 看護」
岐阜ハートセンター 看護部 越野理和
15:15-15:45 「B6 腎不全/シャント看護」
佐賀大学医学部附属病院 看護部 安藤恭代
15:45-16:15 「B8 看護管理/医療安全」
長崎県壱岐病院 看護部 庄山由美
4. 閉会挨拶
16:20-16:30
西九州大学 渡辺直子

ご挨拶

第9回日本血管看護研究会を開催させていただきにあたり、ご挨拶を申し上げます。

本研究会は、「血管障害患者の療養をサポートする看護“専門職”である血管看護の技術の向上を目指す」ことを目的とし、2015年に日本血管看護研究会を設立し活動いたしております。この度、第9回日本血管看護研究会は別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)にて2024年5月31日に開催させていただき運びとなりました(第52回日本血管外科学会学術総会合同開催)。

メインテーマは、「血管看護の基盤づくり～未来への躍進～」です。第1部特別講演では、血管看護に必要な形態機能学1『脳血管疾患と高次脳機能障害—形態機能学を基盤とした看護実践へのアプローチ』を令和健康科学大学看護学部看護学科 生体看護学教授 田中裕二先生、血管看護に必要な形態機能学2『バスキュラーナースのアセスメント、ケアに活かす「血管看護の基盤づくり」』を大分大学医学部看護学科 基盤看護学教授 清村紀子先生にご講演いただきます。血管看護に関連する解剖・病態生理について基本に立ち戻り改めて学びなおすことにより、これからの看護実践につながることを願っております。

また、日本血管看護研究会は、設立9年目を迎え、研究会の趣旨をリニューアルいたしました。本研究会では今後、血管看護のさらなる専門性向上(確立)を目指し、第2部講習会では血管看護に携わってきた看護師による教育・啓蒙の場にしていきたいと考えています。

本研究会の参加者は、健康や生活の課題解決を支援する看護職者、医療・福祉等の専門職者、教育研究者などです。看護学の立場から新たな価値を生み出し発信することで、臨床現場や地域社会の課題や困難を克服していきたいと思っております。参加者の皆様におかれましては、本研究会によって、新たな出会いや連携の機会となれば幸いです。

最後になりましたが、本研究会を開催するにあたり、多くの皆様からご支援、ご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

第9回日本血管看護研究会大会長 岩倉 真由美
(令和健康看護大学看護学部看護学科)

第9回日本血管看護研究会副大会長 吉原 悦子
(西南女学院大学保健福祉学部看護学科)

特別講演 A2024-1

血管看護に必要な形態機能学 1

脳血管疾患と高次脳機能障害—形態機能学を基盤とした看護実践へのアプローチ—

令和健康科学大学 看護学部看護学科 教授 田中裕二先生

脳以外の他の臓器ではブドウ糖（グルコース）以外の栄養素もエネルギー源として利用できるが、脳はブドウ糖しか利用できず、体全体で消費するブドウ糖の約 20%以上を占めている。脳には栄養を貯蔵する部位がないため、ブドウ糖と酸素が十分に含まれた血液を絶えず供給する必要がある。

I. 頭頸部の血管系

1. 動脈系：脳への血液は、左右の総頸動脈から分岐した内頸動脈と鎖骨下動脈から分岐した椎骨動脈の 4 本で供給されている。この 4 本の動脈は、脳の下面で互いに吻合して大脳動脈輪を形成している。
2. 静脈系：脳からの血液は硬膜静脈洞に注ぎ、頭蓋腔の内面を走行し、血液頭蓋内腔の S 状静脈洞に集合する。そこから頸静脈孔を通過して内頸静脈となり、頭蓋腔を出る。

II. 脳血管疾患

1. 動脈系の疾患（脳卒中）：脳血管障害によって急性に発症し、意識障害を伴うことも多く、運動麻痺や感覚障害を合併する症候群である。脳出血は脳実質内の出血で、原因として高血圧が最も多い。好発部位は被殻、皮質下、脳幹（橋）などである。脳梗塞はアテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、ラクナ梗塞などに分類される。急性期トレーニングとして、①ベッドアップ、②ポジショニング、③非麻痺側機能再学習・向上、④積極的動作介入；廃用・二次合併症予防、⑤関節可動域維持訓練、⑥麻痺側へのアプローチ、⑦標準的 ADL および IADL 獲得に向けた指導などが挙げられる。
2. 静脈系の疾患：脳静脈洞血栓症は静脈洞に血栓が生じた状態で、静脈洞が急に閉塞すると静脈血の循環が滞り、頭蓋内圧が亢進し、頭痛や嘔気が生じる。

III. 脳低体温療法

損傷を受けた脳に対し、脳保護作用や頭蓋内圧低下作用を目的として、損傷後早期に水冷式ブランケットなどを用いて体温（脳温）を 32～34℃まで低下させる療法をいう。この療法で代謝機能を低下させ、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、障害領域やその周辺での損傷や脳浮腫などの予防効果がある。

<ご略歴> 学位：医学博士，看護学修士，衛生看護学士

千葉大学看護学部卒業，千葉大学大学院看護学研究科修士課程（現・博士前期課程）修了。その後，日本大学医学部生理学第一講座に助手として勤務し，医学博士の学位を取得。専門は神経生理学，特に高次脳機能（頭頂連合野）について研究。在職中の 1995 年～1997 年，フランス国立衛生医学研究所（INSERM）第 94 ユニット（リヨン）に留学し，Jean-Paul Joseph 教授の下で前頭連合野の研究に従事。2001 年に千葉大学看護学部機能・代謝学教育研究分野（現・生体看護学研究領域）に助教授（准教授）として着任。学部教育では形態機能学（生理学），代謝栄養学（生化学，栄養学），専門職連携教育（IPE）などの科目を担当。2022 年 4 月，福岡県福岡市に開学した令和健康科学大学看護学部にて教授として着任。

特別講演 A2024-2

血管看護に必要な形態機能学 2

～バスキュラーナースのアセスメント、ケアに活かす「血管看護の基盤づくり」～

大分大学 医学部看護学科 教授 清村紀子先生

ヒトの生命活動は、“からだの内と外とのやり取り”で成り立つ細胞での代謝によって維持されています。我々看護者は、こうした“からだの内と外とのやり取り”である呼吸する、排泄する、食事をする、といった生活行動を援助することで生命活動を支えています。

細胞での代謝には、酸素や栄養素が不可欠ですし、代謝の結果産生される二酸化炭素や代謝産物は、からだにとっては不要な産物で、体外に棄てるしかありません。代謝に欠かせない酸素や栄養を細胞へ届け、不要な産物を回収し、肺・腎臓をはじめとする排泄機能を有する器官へと運んでいるのが血液であり、血液の運搬経路が血管です。

血液の運搬経路である血管は、動脈、静脈、毛細血管に区分されますが、その機能は大きく異なります。その機能から、動脈は誘導血管・分配血管・抵抗血管、静脈は容量血管、毛細血管は交換血管と呼ばれています。こうした機能を果たすために、血管は特徴的な構造をもち、各器官系の連関によって成り立つシステムの中でその役割を果たしています。何らかの疾患やその病態によって、こうした血管の機能が果たせなくなると、浮腫や動・静脈血栓、皮膚潰瘍といった徴候が出現します。浮腫や動・静脈血栓、皮膚潰瘍は、時に患者の生命を脅かしかねないこと、患者の苦痛を伴うこと、加えて、ADL・QOLにも影響することから、バスキュラーナースのみならず、ジェネラリストであっても看護師なら誰でも、「これは大変、何とかしなくちゃ！」と思うはずです。当然ながら、症状マネジメントとして対応することは必要です。

一方、同じ徴候であっても、出現するメカニズムは異なっています。体液分布の不均衡としての浮腫は、腎不全や右心不全、リンパの流れが阻害されることで出現しますが、いずれもメカニズムは異なります。また、動・静脈血栓は、血管内皮細胞が慢性的にダメージを受けることでも出現しますが、サイトカインストームのように免疫システムの暴走によって出現する場合があります。つまり、ケアへとつなぐためのアセスメントは単純ではない、と言えます。

そこで、本講演では、バスキュラーナースの皆さんが、よりよいケアを探究する上で重要となるアセスメントに必要な脈管系の解剖・病態生理に関する基本的知識について、あらためて確認することを通して、第9回日本血管看護研究会のテーマである「血管看護の基盤づくり」に少しでも貢献できたら、と考えております。

第 1 回血管看護研修コース 「B2 手術看護／クリティカル／IVR 看護」

診断・治療 ～出発地点 心血管から末梢血管～ 血管で繋がる看護

岐阜ハートセンター 看護師 越野理和

近年の日本における生活は利便性の進化とともに日常生活活動量も含めた運動量は低下しやすい。その反面、食事の多様化、高齢化は進み、糖尿病、脂質異常症、高血圧など血管障害に関するリスクファクターを抱え、厚生労働省による調査では、令和 4 年の死亡数を死因順位別にみると、第 1 位は悪性新生物、第 2 位は心疾患（高血圧性を除く）、第 3 位は老衰、第 4 位は脳血管疾患と血管疾患関連は上位を占めている。また、Reach registry にて冠動脈疾患、末梢動脈疾患、脳血管疾患は一定の割合で合併していることが報告されている。そのような背景とともに、手術、クリティカル、IVR の治療は進歩し多岐にわたる。IVR においては血管系 IVR、非血管系 IVR とあるが、血管系の中でも外科的治療と共同したハイブリッド治療も進化し、血管看護に必要な知識、役割は連携も含め幅広く求められる。血管障害を発症し、突如、生死を分ける危機的（クリティカル）な環境の中、患者は診断を告げられ、治療を受け入れざるを得ない、または治療の選択の決断を求められる現場もある。血管看護師とは、「患者及び家族、それぞれの状況を理解し、最適な選択と最大の成果が得られるように、情報を提供し、専門家同士の繋がりを強めながらケアを提供する」と本研究会でも示されている。治療の意思決定の場に立ち会った時、患者が告げられた診断と治療、告げられたリスクと予後の目指すゴールなどの理解のギャップを埋め、意思決定へと支援していくことは血管看護師としての大切な役割の一つとなる。そのためには看護師自身も疾患や治療の知識を深め、共有し、連携していく必要がある。

本研究会の研修コースでは、各單元の中で全身繋がっている血管、脈管を通じて疾患、病態から患者の生活を知る、看ることそこから「その人の生活を護るためには何が出来るのか」に繋がる専門的な血管看護を学ぶことが出来ます。今回は第一回目となる研修コースの始まりとして、血管を通じて送り出される血液の出発地点でもある心臓・心血管疾患から、全身を廻る看護の学びのスタートとさせて頂き、皆様と共にその先に繋がる血管・脈管看護へと繋げて行けましたら幸いです。

略歴

1993 年 岐阜市立看護専門学校卒業、同年 岐阜市民病院入職

2008 年 名古屋ハートセンター入職、翌年 岐阜ハートセンター入職 現在に至る

資格：インターベンション・エキスパートナース、血管診療技師・フットケア指導士

弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター、介護支援専門員実務研修修了

所属学会：日本心血管インターベンション治療学会、日本フットケア・足病医学会

日本静脈学会、JET

「B6 腎不全／シャント看護」

～VAの基本について～

佐賀大学医学部附属病院 看護部 安藤恭代

慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease: CKD）は腎障害や腎機能の低下が持続する疾患である。CKDが進行すると末期腎不全（End-stage Kidney Disease: ESKD）に至り、透析療法や腎移植が必要となる。わが国の慢性透析患者数は2022年末で347,474人であった。腹膜透析を除く体外循環（施設血液透析、血液透析濾過、血液濾過、血液吸着透析、在宅血液透析）を行うために必要不可欠なバスキュラーアクセス（Vascular Access：VA）は、血液透析患者にとっては“命綱”とも言われている。

日本透析医学会統計調査委員会の「我が国の慢性透析療法の現況（2017年12月31日現在）」によると、自己血管による動静脈瘻（arteriovenous fistula: AVF）は男性で91.5%、女性で84.6%を占めた。男女とも年齢が高くなるにつれて、AVFの占める割合が低下する傾向を認めた。人工血管による動静脈瘻（arteriovenous graft: AVG）は男性で5.5%、女性で10.6%認めた。表在化動脈を使用しているのは男性で1.6%、女性で2.0%であり、表在化動脈の占める割合は男女ともに増える傾向にあった。長期留置型静脈カテーテルは男性で0.9%、女性で2.2%使用されていた。

このVAは体外循環治療に用いる血液を脱血・返血の2か所に穿刺を行う必要がある。穿刺を行う上で、血管の走行・蛇行・可動性・狭窄の有無・深さをアセスメントし、穿刺を行い血管内に留置し固定する。透析治療が終了したのちには返血し抜針を行い止血する必要がある。透析治療で一番の目的としているものは、十分な血流を確保し、効率的な血液透析が行えることである。

血液透析は、生涯にわたり週3回の透析治療が必要であり、穿刺は患者に侵害受容性疼痛を与えるため、患者に真摯に向き合い信頼関係を構築していく必要がある。透析患者のVAを良好な状態に維持管理していくために、まずはVAについて今回の講義で述べていく。

略歴

2004年 看護師免許取得

2013年 佐賀糖尿病療養指導士 フットケア指導士 取得

2017年 透析看護認定看護師 CAPD 認定指導看護師取得

2020年 看護師特定行為修了

（創傷管理区分 透析管理区分 栄養及び水分区分 血糖管理区分）

2021年：腎不全看護認定看護師に名称変更

2022年：腎代替療法専門指導士取得

所属学会：日本腎不全看護学会、日本腹膜透析学会、日本臨床腎臓病看護学会、
日本フットケア・足病医学会

「B8 看護管理/医療安全」

長崎県壱岐病院 診療看護師/クリティカルケア認定看護師 庄山由美

昨今、我が国では併存疾患を抱えた血管障害をもつ患者は増加傾向にある一方、医療の効率化が求められている。専門性を高めた血管看護師が、血管障害患者に対し、早期治療や予防的介入等直接的ケアに関わることで、患者の満足度向上や医療・看護の質向上に寄与することが期待される。

血管障害をもつ患者においては、障害を抱えながら生活をしている患者や家族、その取り巻く環境に対し、手術や処置などの治療介入、食事・運動療法などの患者指導を含めた予防的介入、社会復帰や在宅医療への移行支援等が必要であり、血管看護師の役割は多岐にわたる。また、血管障害を持つ患者は糖尿病や慢性腎臓病、虚血性心疾患、脳血管障害等の生活習慣病を併存している者も少なくなく、治療に伴う合併症や急変のリスクも高いと考える。血管障害をもつ患者を看護する血管看護師においては、血液透析やカテーテル検査や血管内治療などの観血的治療やフットケアや下肢潰瘍の創部処置等も多く、血液暴露・針刺し事象など危険を伴う職場環境にあるといえる。

その中で、患者のみならず血管看護師を含む医療者においても、安全な医療・看護を提供するためには、感染対策や急変対応などを踏まえた医療安全の知識や、血管看護について専門的知識と技術の習得が必要である。さらには患者家族の社会的背景を理解した全人的な看護の提供が重要となる。

今回、血管看護師として、患者にとって安全で安楽な医療・看護の提供に必要な医療安全の知識と、血管看護における高度実践者と看護管理者の役割について述べていく。

血管看護研修コースのご案内

2017 年日本血管看護研究会設立より代表世話人を務めております溝部みぞべと申します。この度は、謹んで、血管看護研修コースについてご案内申し上げます。

私は看護師として外科病棟に勤務するようになり、閉塞性動脈硬化症や腹部大動脈瘤の術後患者さんと初めて出会い、どんなケアをすれば良いのだろうと、自信もなく、正解もわかりませんでした。

血流が滞ったり、血管が破綻することが、どれほど問題で、患者さんは何がどう大変なのだろうと、それらを知ることが最初の 10 年。次の 10 年は、多様な併存症の療養や予防を含めて、様々な場所で多職種の方々と共に働きました。現在は、血管看護を次世代に引き継ぐための研究・教育に通ずる仕組みづくりを目標に掲げ、様々な場所で孤軍奮闘してきた同士と仲間意識を共有し、この血管看護研修コースで集結することができました。

血管看護の専門職種性を高めることで、血管障害患者のみならず、様々な組織・臓器の循環障害を伴う人々の健康成果を改善することが期待されます。脈管の健康は、全ての年代の人々の健康課題です。

血管看護研修コースは 8 領域から構成されます。皆さま方それぞれの勤務環境や興味関心に応じて受講を進め、血管看護にあなたの未来を描いてみませんか？ご参加お待ち申し上げます。

日本血管看護研究会 代表世話人 溝部昌子

日本血管看護研究会は、2015 年 6 月に日本血管外科学会のシンポジウムを受けて溝部昌子代表世話人によって設立されました。以来、毎年の研究会をはじめ、血管障害患者の療養をサポートする看護専門職として、透析、手術、糖尿病、創傷のそれぞれの看護、健康教育や運動指導まで活動を継続してきました。

この度、新たに血管看護研修コースを構築すべく運営委員会が立ち上がりました。テーマを画像評価や手術、透析、症状管理や医療安全など 8 つの体系に整理し、年 1 回の研究会で継続的に講習を行うべく精鋭準備しているところでございます。

会員の皆様をはじめ、血管看護に興味を持つ看護師、また当該病棟などに異動され勉強の機会を模索している方など、幅広く受講いただける方を募集しております。私たちと一緒に、今後も増加が懸念される血管障害の看護について学び、議論しながら血管看護を深めていきませんか？

血管看護研修コース運営委員会 委員長 日野岡蘭子

血管看護研修コースの詳細はホームページにて
<http://jsvn.umin.jp/vnlearning.html>

第 1 回血管看護研修コース
修了テスト

アンケートにご協力おねがいします。



第 9 回日本血管看護研究会

会長 岩倉真由美 副会長 吉原悦子

実行委員 喜多麻衣子 金子由里 渡辺直子 中山佳之 溝部昌子



日本血管看護研究会
Japanese Society for Vascular Nursing

E-mail: vascular.nursing@gmail.com

URL: <http://jsvn.umin.jp>

